



クラスター爆弾生存者、キム・ソムナーンさん

2月にプレアビヒアをめぐるタイとカンボジアの交戦があった時、ソムナーンさんは国境を警備する警察官としてプレアビヒアの麓にあるスパイ・チュロム村に配属されていた。

Voice of Heartで彼のストーリーを紹介した。

キム・ソムナーンさん

私は2008年からスパイチュロム村で国境警備の警察官をしていました。タイ軍が寺院を砲撃しその後、スパイチュロム村にも155mm砲で砲撃しました。はじめはそれがクラスター爆弾だとは知らず、ただ、砲弾が落ちた後ろ側にたくさんの子爆弾が落ちていたのを不思議に思っていました。

2011年2月6日にスパイチュロム村で事故に遭いました。その事故で他の警察官、チェン・ニモルも事故に遭いました。私は爆発した場所から0.5メートルほどのところに座って携帯電話を充電しようとしていました。クラスター爆弾を見てほどなくしてそれが爆発しました。その瞬間は事故に遭ったとわからず気づけば病院でした。



右手を切断、右目を負傷

彼は右手を失い破片を顔に受け、右目は開かず左目も見えにくくなってきている。破片による影響と思われる頭痛が治まらない。

彼自身はクラスター爆弾に触れたわけではなく巻き添えを食った形だ。リスナーに語りかけてもらったメッセージが切ない。

“もし今まで見たことのない奇妙なものを見つけても決して触ったり持ち上げたりしないでください。それは私が事故に遭ったようにあなたを傷つけることが出来るのです。”



新しい右手

番組放送後再び彼を訪ねた。シェムリアップのリハビリテーションセンターで義手を受けた。義手とリハビリの提供、センターでの滞在は無料だが、往復の交通費を負担しなければならずCMCで交通費を援助した。

しかし、目と頭の調子は良くなっておらずプノンペンの病院にてCT検査を受ける必要があるという。おそらくそれなりの金額がかかるだろう。元警察官として恩給のようなものがあるようだがあまり期待出来ない。他に彼への支援はいまのところない。